様式６

認定歯科衛生士メインテナンス１症例

症例番号
歯周外科（有・無）

初診年月日　：

患者（イニシャル可）：　　歳　　性別

主　訴

現病歴　　主訴についていつどのように発症しどのような経緯をたどって現在に至ったかを記載

全身既往歴　全身疾患（発症時期と現在の状況等）

口腔既往歴　歯科治療受診歴　注)1

特記事項：　喫煙や糖尿病の有無　その他特記すべき事項

口腔衛生状態

プラーク指数　　初診時　　%　　基本治療終了時　　%　　メインテナンス時　　%

歯列咬合状態：注)2

原因的事項および修飾的因子：

診断名　（「歯周治療の指針 2015」に準ずる）　（「AAP・EFP の新分類 2018」併記）

ステージ　　グレード

注)1 これまでの歯科治療受診歴の概要を記載するが、特にこれまでの歯周治療経験の有無や歯周病発症期を推察できる既往を記載できると良い。

注)2 咬合所見：下顎位置関係（Angle　級）、不正咬合（前歯の被蓋関係）、歯列弓形態、外傷性咬合の有無など分かる範囲で簡単に

【口腔内写真所見】
口腔内写真における歯肉の炎症所見、歯肉形態（腫脹型・退縮型）、歯石沈着、不良補綴物など

【歯周組織検査所見】
4-5mm, 6mm 以上の PPD の割合、BOP（＋）率、PISA など

【X 線写真所見】
縁下歯石の有無　骨欠損の部位など

【患者背景】
歯周病に影響を与える可能性のある患者の性格や習癖、全身疾患との関わり、社会背景、家庭環境など

【歯科衛生士としての治療方針】
歯科衛生士として関わる予定の治療計画を記載
歯周治療を行う上で、患者の病態や性格に合わせて歯周基本治療をどのように進めていくか

様式６

治療経過およびDHが関わった部分（箇条書き）

※ 用紙が不足の場合は適宜追加の上で作成してください。

まとめと今後の対応

指導医または認定医氏名（自署）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿○印